平成28年度　　**教科名[技術家庭科]** 中15　　練馬区立光が丘第一中学校

内容別･観点別の分析　（様式2）

	内容別結果分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
1年	技術分野においては、図面の引き方や工具の使い方を学ぶことができた。 家庭分野では、家庭生活や食事に関しては、座学を重点的に置くことで、より深い学びを行うことができた。	両教科とも、座学が主体となっているために、まずは関心を高めるところから始め、導入は効果的に行うことができた。 しかし、基本的な部分で課題が残る生徒もいた。特に技術科の製図においては定規を使うことが難しい生徒がいた。	両教科共に今後は実習形式が増えていくため、全体指導よりは個の支援に重点を置いた授業体系に切り替えていく。 木材加工実習や被服実習など危険が予想されやすいため、安全指導に重点を置いていく。
2年	技術分野では、自分の教材をプランに沿って製作を自己管理しながら行うことができた。 家庭分野では、座学で学んだうえで、実習を効果的に効率よく行うことができた。	実習時に、基本的な技術を取得させることができた。 今後は、工具や道具を工夫して使うことや、次の作業を見据えて計画していくことに関する力が伸びてきているので、さらに成長させていこうと考える。	今後も興味関心をより一層ひけるような導入方法の検討をしていく。実習時においても作業効率や作業の充実を図っていく。 また、集中が続かない生徒への支援に重点を置いていく。
3年	技術分野では、興味関心をもち座学を積極的に学ぶことができた。実習時も、工具の扱いなど気を付けて行うことができた。 家庭分野では、プリントを使用し効果的に学習することができた。	興味関心がまだ低く、新しいことや次のことを学ぼうとする姿勢の充実を図っていく必要がある。 実習時に工具の適切な使い方をさらに指導していくとより良い作業ができるようになると思われる。授業規律に関しては今後も継続して指導していく。	作業を進めていくうえで、主体的に、そして、効果的に行っていけるような支援に重点を置く。 実生活に役立つ事例を挙げて、自分の生活へのフィードバックができるような指導を行っていく。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充学習等の計画（様式３）

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な指導計画
1年	・課題に向けての関心が高い生徒が多く、積極的に作業を進めることができていた。 ・意欲の高さとは逆に技能面で課題のある生徒が何名かいた。 ・知識理解については、定着の差が大きい。	・教材についている作品例にこだわらず、自分なりのデザインを生かした作品作りをさせていく。また、作業の効率を高めるた工夫をさせる。 ・知識・理解の達成率を高めるために、１回の授業のなかでの説明だけでなく、作業を進める中で必要な知識について確認をしていく。	・工具や機械の充実をはかり、作業を効率的に進めていけることができるようにしていく。 ・授業の中で作業を振り返り、知識理解を深めていく。 ・振り返りの中で、自分の作業を認め、自己肯定感を向上させていく。
2年	・課題に向けての関心が高い生徒が多く、積極的に作業を進めることができていた。 ・技能的には個人差が大きく、早く正確に作業ができる生徒とその逆の生徒がいた。 ・知識理解については、ある程度理解できていると考えている。	・生徒の様子を参考にしながら、作業ごとの目標を決めて作品作りを進めていく。 ・教材についている設計図にこだわらず、自分なりのデザインを生かした設計をさせていく。また、作業の効率を高めるための工夫をさせる。	・作業が早く進んだ生徒については、発展的な課題や高度な作業に挑戦させることでより技能を高めるようにする。 ・作業の遅い生徒については、作業の一部を教師や作業の得意な生徒と一緒に行うようにする。 ・振り返りの中で、自分の作業を認め、自己肯定感を向上させていく。
3年	・多くの生徒が積極的に課題に取り組んだ。しかし、課題に向けてあまり関心をもつことができない生徒がいた。 ・知識理解に関しては、定着の差が大きかった。	・知識・理解の達成率を高めるために、１回の授業のなかでの説明だけでなく、作業を進める中で必要な知識について個別に確認をしていく。 ・教材についている作品例にこだわらず、自分なりのデザインを生かした設計をさせていく。また、作業の効率を高めるための工夫をさせる。	・作業の遅い生徒については、作業の一部を教師や作業の得意な生徒と一緒に行うようにする。 ・作業が早く進んだ生徒については、発展的な課題や高度な作業に挑戦させるようにする。 ・振り返りの中で、自分の作業を認め、自己肯定感を向上させていく。